記者発表資料

Press Release

国土交通省 東北地方整備局
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

令和５年３月２３日
東北地方整備局

東北地方のインフラＤＸを牽引する新たな拠点が誕生！

～「東北インフラDX人材育成センター」、「東北インフラDXルーム」が開所します～

東北地方整備局では、官民連携による建設業の担い手確保の取り組みである、令和5年度の“東北未来「働き方・人づくり改革プロジェクト」”を決定したところです。

このプロジェクトを推進する拠点として、このたび、東北技術事務所内に**「東北インフラDX人材育成センター」**を開所し、最先端のデジタル技術を活用した人材育成に取り組んでまいります。

また、東北地方整備局内には**「東北インフラDXルーム」**を開所し、データやデジタル技術を高い臨場感で活用し、効率的な業務遂行を図るなど、新たな働き方を先導してまいります。

【開所式】

1. 日　　時　令和５年３月２８日（火）１３時３０分～

2. 場　　所　**「東北インフラDX人材育成センター」**　13:30～14:00（予定）
東北地方整備局東北技術事務所内
〒985-0842　宮城県多賀城市桜木3-6-1
・出席者　東北地方整備局長　山本　巧
東北技術事務所長　高橋　秀典
・主な内容　看板除幕、挨拶　※式典後、14時から施設概要説明を行います。

「東北インフラDXルーム」　16:00～16:30（予定）
東北地方整備局企画部内
〒980-8602 仙台市青葉区本町3-3-1　仙台合同庁舎B棟11階
・出席者　東北地方整備局企画部長　中平　善伸
・主な内容　看板除幕、施設概要説明

3. そ の 他　〇取材をご希望の報道関係の方は、別紙「取材申込書」により
あらかじめご登録をお願いします。
〇なお、取材当日は、各会場とも15分前までの集合をお願いします。

＜発表記者会　：　東北6県県政記者会、東北電力記者会、東北建設専門紙記者会＞

＜問い合わせ先＞
東北地方整備局　企画部
建設情報・施工高度化技術調整官　小山田（おやまだ）　桂夫（かつらお）　TEL　022-225-2171（代表）

東北地方整備局　東北技術事務所　副所長　澤田（さわだ）　敏樹（としき）　TEL　022-365-8211（代表）

東北地方整備局におけるインフラDXの推進体制

国土交通省
東北地方整備局

インフラDXルーム



DXデータセンター等



各地整DX推進センター



連携

提供　利活用

連携

東北復興 DX・i-Consturction 連絡調整会議

連携

東北地方整備局インフラDX推進本部

- 非接触・リモート型の働き方への転換
- 新技術の活用促進
- 3次元データの利活用促進
- デジタル人材の育成・環境整備

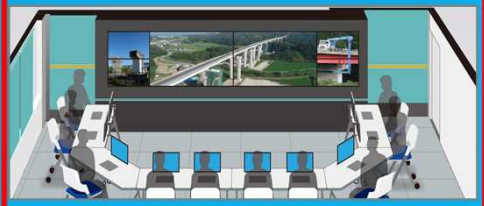
令和5年3月28日開所

【東北インフラDX人材育成センター】


《 人材育成ルーム 》


《 シミュレータブース》

【東北インフラDXルーム】



活用促進
技術支援
人材育成
情報発信

業務・工事の受注者

若手技術者 学生・生徒等

地域住民等

大学等の学術機関

指導・助言

自治体 関連業団体・建設業者

連携

i-Conサポート事務所等

各職場・業務・工事でDXを実践

技術支援
人材育成

i-Conモデル事務所



連携

先進的な工事現場

連携

「東北インフラDX人材育成センター」（東北技術事務所内）

国土交通省
東北地方整備局

建設生産プロセス（測量・設計、施工、維持管理）におけるインフラDX推進に向けた人材育成を図るため、発注者（地方公共団体含む）及び受注者に対する3次元データ・デジタル技術の知識習得（研修・実習等）を目的とする。

あわせて、東北インフラDXルームとの連携により、インフラDXの情報発信を図る。

● VR・MRなどのデジタル技術活用に対応した
研修・セミナーの高度化により人材育成。



※R5_新規カリキュラムによる研修・セミナーがスタート

■ 体験施設の活用イメージ

VR技術／DX体験スペース

・コンピュータによる3D映像を重ねて表示するデジタル技術等を体感・体験。



除雪機械 運転シミュレータ体験

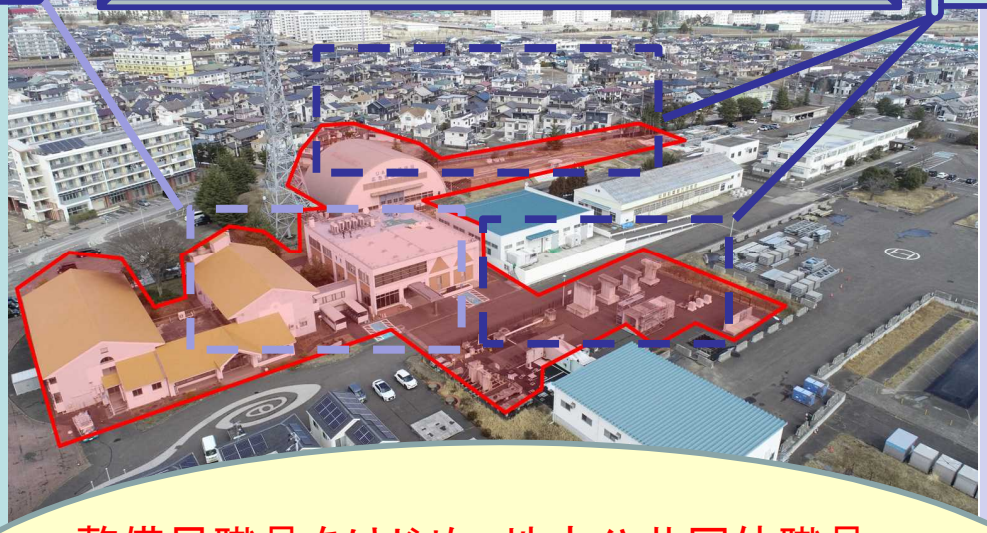
・経験年数が浅い除雪オペレータ等を対象に、除雪作業を実践感覚で操縦訓練。



東北インフラDX人材育成センターでできること

国土交通省
東北地方整備局

東北インフラDX人材育成センター



整備局職員をはじめ、地方公共団体職員、民間事業者も対象に、インフラDX関連の各種技術を習得する場として活用し、建設業界におけるDXの推進・普及拡大を図ります。

屋内施設

人材育成ルーム



3次元点群のデータ処理や3次元CADソフトの操作をスムーズに行うことができる高性能PCを備えており、3次元モデルの新規設計や現況地形（構造物）の3次元モデル化などの技術を学習することができます。

DX・プレゼンルーム



大型モニタや電子黒板を活用したプレゼンテーション能力向上学習、災害現場の写真データ転送及び変状確認（土量算出）訓練、遠隔臨場による出来形確認訓練等が行えます。

XRブース



VR（仮想現実）による河川氾濫シミュレーションや道路構造・機械設備内部構造の臨場感あふれる映像を用いた学習ができます。

シミュレーターブース



除雪グレーダ及びバックホウのシミュレータを備えており、各機械の基本操作の習得のほか、除雪作業及び土砂掘削時の安全上の留意点を学習することができます。

屋外施設

UAV訓練施設



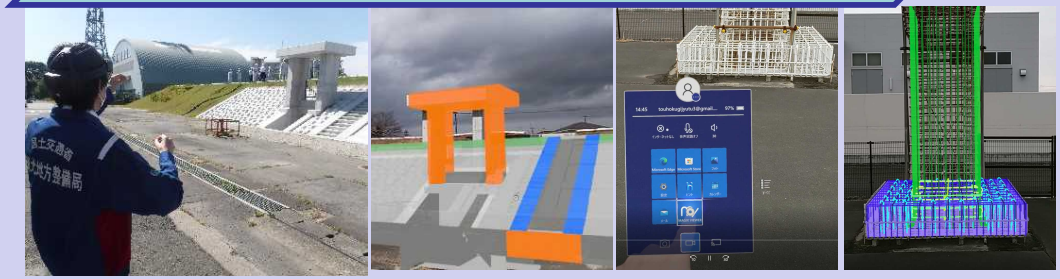
ドローンの操縦訓練及び空中写真撮影の訓練を非熟練者でも屋内で安全に行うことができます。

無人化施工エリア



遠隔操縦式バックホウやロボQs（簡易遠隔操縦装置）により、バックホウでの掘削や揚重作業の遠隔操縦（目視・非目視）訓練ができます。

体験型河川堤防等実習施設／体験型土木構造物実習施設



AR（拡張現実）を用いた河川堤防やコンクリート構造物等の構造学習や、MR（複合現実）を用いた出来形確認の学習ができます。

「東北インフラDXルーム」（東北地方整備局企画部内）

【設置目的】

インフラDXを推進する拠点として「東北インフラDXルーム」を整備局内に設置し、高速通信網の整備とルーム内のWi-Fi化により、映像や資料等の共有を効率化するとともに高い臨場感で業務遂行するなど、データとデジタル技術によるインフラ分野での技術革新等の促進を図る。

また、デジタル技術を活用した情報収集・情報共有ツールを導入し、災害現場等への技術支援や情報連携を強化する。

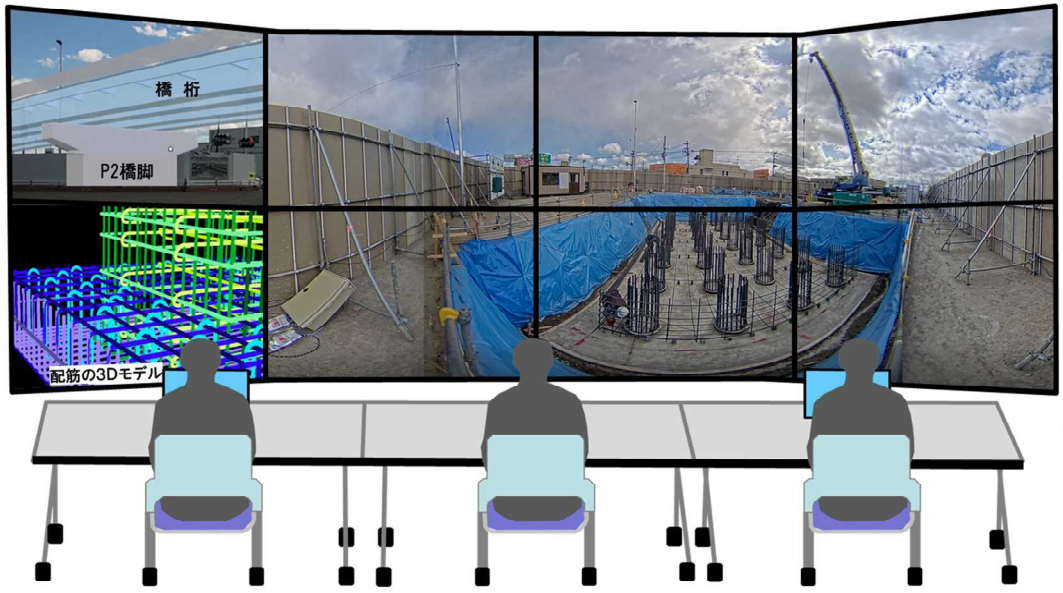
● VRやMR、ドローン等を活用し、現地の状況や施工シミュレーション・完成形の確認を実際の場所で見ているかのような「新現場空間」をDXルームに再現する。

※ DXルームの完成イメージ

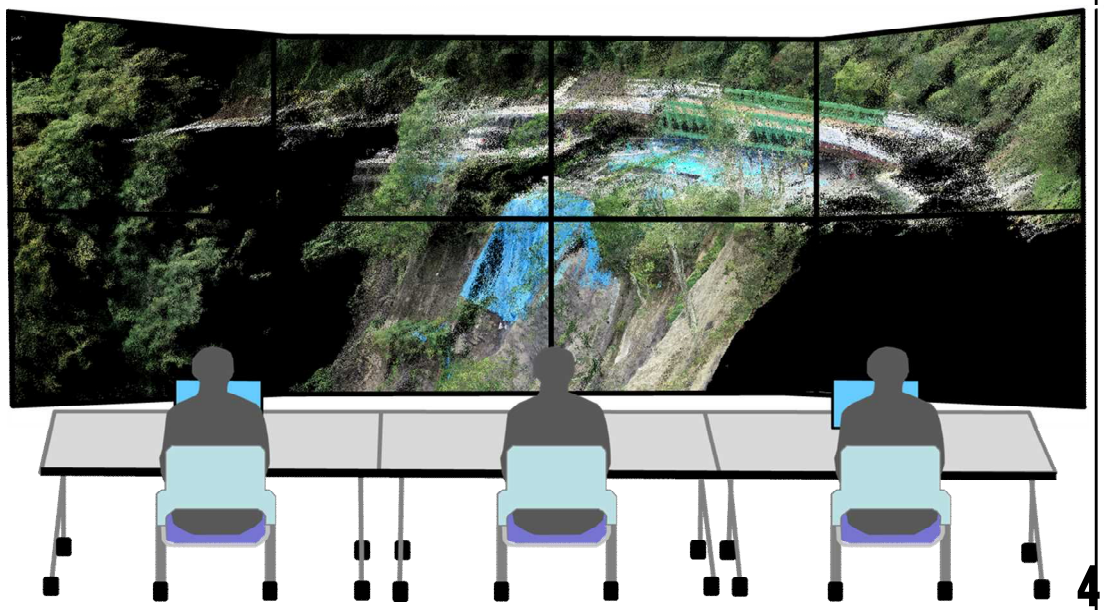


■ 8面マルチモニターの活用イメージ

橋梁下部工現場を可視化（VR・MR等の活用）



3次元点群データを用いて災害現場を可視化



別紙

取材申込書

・取材をご希望の報道機関におかれましては、事前に必要事項を記入の上、ＦＡＸにてお申し込みください。
・申し込み締め切りは３月２７日（月）１６時です。
・咳などの風邪症状、発熱等、体調不良のある方は、参加をご遠慮ください。

会社名 （報道機関名）	
取材者(代表者)の 役職･氏名･連絡先	**役　職** **氏　名** **連絡先**
取材される人数	**名**
取材希望	**①東北インフラDX人材育成センター （東北技術事務所内） ②東北インフラDXルーム （企画部内） ③上記①②の両方**　※番号を記載

■ＦＡＸ送信先

東北地方整備局　東北技術事務所　施工調査・技術活用課　宛て

ＦＡＸ番号　　０２２－３６５－８１５２

・送り状は不要ですので、本紙のみをそのままＦＡＸしてください。
・お手数ですが、ＦＡＸ送信後、受信確認のため、下記の「受信確認先」までご連絡ください。
【受信確認先】東北技術事務所 施工調査・技術活用課 今野、伊藤
０２２－３６５－８２１１（代表）　内線３８１、３８２

東北インフラDX人材育成センター

〒985-0842 宮城県多賀城市桜木3丁目6-1
TEL：022－365－8211（代表）
URL：http://www.thr.mlit.go.jp/tougi/index.html

■電車
JR仙石線の多賀城駅から徒歩20分、車で約10分
■バス
多賀城駅前『1番のりば』から、宮城交通汐見台団地線菖蒲田行きに乗車、『桜木三丁目』下車（約10分）。



東北インフラDXルーム

〒980-8602 仙台市青葉区本町3－3－1　仙台合同庁舎B棟（11F）
TEL：022－225－2171（大代表）
URL：http://www.thr.mlit.go.jp

